

ほげんたより11月

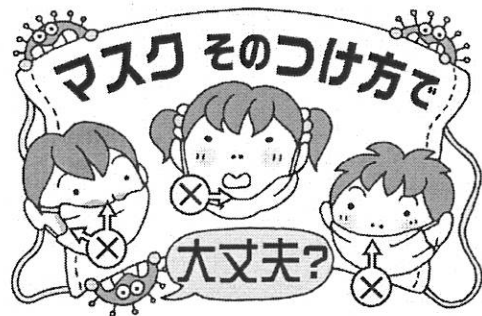
和歌山県立田辺工業高等学校 保健室 2019年11月第2号 (Vol. 16)

校内の木々も葉を落とし、冬の装いに近づいています。

のどの痛みや発熱、頭痛、腹痛・下痢などを訴えるひとも多くなっています。

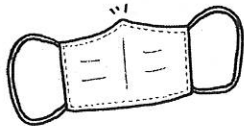
今のところ本校ではインフルエンザにかかった人はいないようですが、全国的にはすでに流行期に入ったと言われています。

感染症の予防行動を再度確認し、実践していきましょう！



流行前におさらい… マスクの使用方法

①鼻の部分を軽く曲げ、折り目をつける。



②顔にマスクをつけ、ひもを耳にかける。



③鼻の部分を鼻にそって押さえ、すき間をなくす。



④あごの下まで伸ばし、鼻・口・あごをすべてしっかり覆う。



すき間が大きかったり、あごにかけていたり、はたまた鼻が出ていたり…意味ないですよ！

手洗いも効果あり！

正しい手洗い方法を身につけよう！！

感染症にかからないために

ていこうりよくアツプ カラダの抵抗力UP!!



バランスのとれた食事 しよくじ



適度な運動 てきど うんどう



じゅうぶんな睡眠 じゆうぶん すいみん



予防接種 よぼうせつしゅ



保健所で、性感染症や HIV の抗体検査を無料・匿名で受けることができます。プライバシーは守られます。詳しいことは保健所に問い合わせてください。保健室でも質問 OK です。

田辺保健所 0739-26-7933

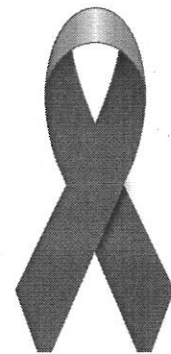
令和元年度「世界エイズデー」キャンペーンテーマ

UPDATE! 話そう、HIV/エイズのとなりて ～ 検査・治療・支援～

治療法の進歩によってHIVに感染しても、感染していない人と同等の生活が可能になっています。治療の継続で人への感染リスクも大きく減少します。

けれどそんな現状を知らないために、HIV感染を心配しても検査を受けず、治療が遅れ、エイズを発症してしまう人たちがいます。

今年度のキャンペーンテーマは、HIV/エイズに関する知識を身につけ、自分のとなりにある身近なものとして語り合うことで、検査、治療、支援につながるよう後押しするものです。またHIV感染者などに社会全体で寄り添うことの重要性も込められています。



“レッドリボン（赤いリボン）”は、古くからヨーロッパに伝承される風習のひとつで、もともと病気や事故で人生を全うできなかった人々への追悼の気持ちを表すものでした。

この“レッドリボン”がエイズのために使われ始めたのは、アメリカでエイズが社会的な問題となってきた1990年ごろのことです。

このころ、演劇や音楽などで活動するニューヨークのアーティストたちにもエイズがひろがり、エイズで死亡する人々が増えていきました。

そうした仲間たちに対する追悼の気持ちとエイズに苦しむ人々への理解と支援の意思を示すため、“赤いリボン”をシンボルにした運動が始まりました。

この運動は、その考えに共感した人々によって国境を越えた世界的な運動として発展し、UNAIDS（国連共同エイズ計画）のシンボルマークにも採用されています。

レッドリボンは、あなたがエイズに関して偏見をもっていない、エイズと共に生きる人々を差別しないというメッセージです。

このレッドリボンの意味を知り、レッドリボンを身につけることによって、エイズのことをみんなで考えましょう。

(公益財団法人 エイズ予防財団 HP より)